



「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」 （令和3年4月22日日本学術会議総会決定） に掲げた具体的な取組事項の進捗状況

（令和3年9月30日 日本学術会議）

1 国際活動の強化

具体的な取組事項

進捗状況

国際学術団体に役員レベルで参加拡大を追求

- 役員レベルでの参加拡大に向けて、国際学術会議（ISC）傘下の国際学術団体役員を務める会員等と意見交換会を実施（8月）

英国王立協会等、世界のリーディングアカデミーとの交流・連携強化

- 英国王立協会会長との会談（1月）、ドイツ・カナダ・英国の各アカデミー会長経験者等との会談（7月）を実施。

国際活動に参加する会員、国際学術団体役員等が交流・連携するプラットフォームの設置検討

- 国際学術団体との連携強化を目的として、国際学術団体役員を務める会員等との交流・連携に向けた会合を実施（8月）

2 意思の表出と科学的助言機能の強化

具体的な取組事項	進捗状況
委員会・分科会間の横断的な交流・連携、合同審議・提言などを可能にし、その結果を検証する仕組みの整備	<ul style="list-style-type: none">➤ 幹事会の下に「委員会等連絡会議」を置き、課題ごとに関係する委員会・分科会間が連携するとともに、連絡会議を開催したときは、議題・審議の概要を幹事会に報告する体制を構築（6/24幹事会決定）<ul style="list-style-type: none">・カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議（6/24設置）・パンデミックと社会に関する連絡会議（7/29設置）・持続可能な発展のための国際基礎科学年2022連絡会議（7/29設置）
会長、幹事会が主導した課題設定、横断的審議、意思の表出	<ul style="list-style-type: none">➤ 提言等の在り方の見直し、中長期的に検討する課題について、会員による議論を開始（次回総会で決定予定）➤ 会長・幹事会主導で分野横断的な課題を検討する課題別委員会の設定<ul style="list-style-type: none">・我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会（6/24設置）・ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会（7/29設置） など
会員・連携会員の意識変革	<ul style="list-style-type: none">➤ アンケートや意見交換の実施（昨年11月、12月、本年3月、10月（予定））➤ 記者会見資料等の情報共有

3 対話を通じた情報発信力の強化

具体的な取組事項	進捗状況
記者懇談会の定例化	<ul style="list-style-type: none">➤ 毎月の幹事会終了後の記者会見の定例化（昨年10月～）
産業界、専門職団体等との連携 （大学関係団体、NPO・NGO等）	<ul style="list-style-type: none">➤ 学協会との連携（例：日本医学会連合と連携して新型コロナウイルス感染症関連シンポジウムを共同で主催、関連学協会連合体との意見交換会の実施）➤ 産業界出身の会員・連携会員を政府・産業界・市民との連携強化分科会委員として追加（6月）➤ 国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学連盟、日本私立大学協会との意見交換の実施（7月～9月）
国民との対話、学術フォーラム・公開シンポジウム等の動画配信の推進	<ul style="list-style-type: none">➤ 国民向けにわかりやすいパンフレット、リーフレットの作成（3月）➤ 学術フォーラムのオンライン開催・動画配信を開始
解決が求められる社会的課題の関係者との対話・協働	<ul style="list-style-type: none">➤ 学術会議関係者と府省関係者が情報交換する会合の開催（例：防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会の開催（8月））

具体的な取組事項

進捗状況

会員候補選考に関する説明責任の強化

- 幹事会における議論を開始

事務局機能の強化

- 課題ごとに関係する委員会・分科会間が連携する委員会等連絡会議に関する事務を処理するため、事務局に「総合企画調査推進チーム」を設置（6月）
- 会議のオンライン化やデジタル化の進展に応じたシステム環境の整備
- 事務局職員の定員要求、学術調査員経費の予算要求